

拝啓

秋も末、紅葉のきれいな時期になりました。お元気でお過ごしのことと思います。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。第 68 号をお送り致します。

今月から、ドイツでナチス政権下にも信仰を守り通されたバジレア・シュリンク先生の「愛のまなざし 神の子の日ごとのよりどころ」からの引用をお届けします。この本は、霊想の本が並んでいた教文館の棚で見つけて読んだことが始まりです。今読み返してみて、聖霊の働きを強調している本だと思います。バジレア・シュリンク先生は、ドイツの方で、2001 年に 87 歳でお亡くなりになりました。

先日盛岡へ出張した帰り、仙台で途中下車して、今度南原シンポジウムで講演をお願いしている宮田光男先生（東北大学名誉教授）を訪問し、1 時間ほどでしたが、いろいろお話を伺ってきました。その時、宮田光雄先生から、『われここに立つ 人生の座標軸を求めて』（岩波書店）というご著書を頂きました。この本の第 1 章は「それでも人生にしっかりと言おう」という、ナチスの強制収容所アウシュヴィッツの囚人だったフランクルの体験を紹介する講演ですが、大変感動的な内容です。

P.17 「フランクルは、ゲーテの名句を引いています。いかに人間は自分自身を知ることができるだろうか。考えているだけでは、決して分らない。ただ行動することによってである。汝の義務を果たそうと勤めよ。汝は、直ちに汝自身を知るであろう。しかし、汝自身の義務とは何か。それは日々の要求である。」（小西先生の言われる、毎日の眼の前の義務を果たせ、と同じです。）

P.21「こんな人がいるだけでも、この世界には意味があり、この世界で生きている意味がある」と言いたくなる感動は、誰でも良く知っています。名著に出会って、こころのふるえるような思い出を重ねてきた人は少なくないでしょう。」

12 月 1 日の南原シンポジウムでの宮田先生の講演が楽しみです。

11 月 23 日、中国北京大学の学生で早稲田大学に留学してきている 3 人の学生さんをうちに迎えて、いろいろ話をしました。その中の一人の人が、「儒教は宗教ではない。宗教は道教(老子)である。」と言っていたのが印象的でした。なるほど、儒教(特に孔子の論語)は、道徳だと思いました。

寒さが厳しくなる季節の変わり目です。どうぞお身体ご自愛下さい。

平成 19 年 11 月 28 日

山口周三

エンカウンター of 読者各位